

from the world
世界の国から

ナイジェリア連邦共和国

Federal Republic of Nigeria



ルックマン・マムドゥ氏

ナイジェリア連邦共和国自動車協議会

政策・企画部 部長

Mr. Luqman Mamudu

Director

Policy and Planning Department

National Automotive Council (NAC)
of Nigeria (Abuja, Nigeria)

- 首都 アブジャ (1991年ラゴスより遷都)
- 面積 92.4万平方キロメートル (日本の約2.5倍)
- 人口 1億5,470万人 (2008年、UNFPA)
- 政体 連邦共和制 (大統領制)
- 元首 グッドラック・エベレ・ジョナサン大統領
- 言語 英語 (公用語)、各民族語
- 通貨 ナイラ

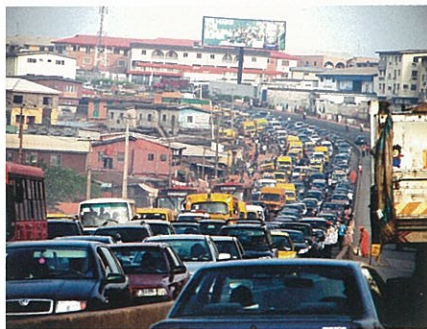


巨大消費者市場への自動車産業の誘致を目指す

ナイジェリアの自動車関連ビジネス

今回の来日目的は、ナイジェリアでの自動車関連、特に自動車部品とリサイクルの分野でのビジネス機会を紹介することです。

現在、ナイジェリアでは自動車の需要が急速に高まってきています。近年の自動車登録台数は新車と中古車を合わせて毎年約35万台を数え、その数は年々増える傾向にあります。特に低燃費のコンパクトカーに人気があり、国内生産を推進して、その需要を満たすことを目指しています。



ラゴス州内 (写真提供:「The Power of Naija」より)

業界として自動車部品製造とリサイクルの分野にも力を入れています。部品の国内生産設備は老朽化のため生産効率が低い上、国内生産率は現在約5%しかなく、良質な交換部品の供給が十分とは言えません。自動車の需要増と共に大幅な成長が見込まれる分野

であり、設備の更新が急がれます。

リサイクルに関しては、自動車普及するにつれて、使用済の自動車 (End of Life Vehicle) を適切に処理する技術やシステムの導入が求められています。適切な解体処理と再資源化、部品の再利用は資源の有効利用という観点からも、環境保護という観点からも注目されており、これから急速に成長する分野であると思われます。

いずれの分野も、ナイジェリア国内で事業を行うことによってコストを抑えれば、国内の潜在的な需要を掘り起こすことも、競争力のある価格で輸出することもでき、企業にとっては大きなビジネスチャンスになります。

18のフリーゾーンの魅力

外国企業の進出を後押しするのがフリーゾーンです。現在、ラゴス周辺をはじめ各地に18のフリーゾーンが設定されています。政府はフリーゾーンをビジネスのための拠点として位置付けており、様々な優遇措置を設け、外国企業を積極的に誘致しています。関税・税金の減免措置はもちろん、各種の手続きも簡略化され、1か所でできるように配慮されています。また、十分なセキュリティも確保されています。

電力、水、交通、通信などのインフ

ラ整備の対策も進んでいます。例えば電力は、2009年現在6千メガワットの発電量を2011年までには1万6千メガワットまで大幅に引き上げる予定です。また、学校教育は英語で行われ、その水準も高く、優秀な人材を確保することも難しくありません。

日本企業の進出に期待

今回の来日では、日本各地で自動車関連企業の方々や政府・団体関係者とお会いし、好感触を得ることができました。日本車はナイジェリアでは大変人気があり、国内の自動車の6割以上が日本車です。しかし、最近は中国や韓国のメーカーが進出してきており、徐々にシェアを拡大しています。ナイジェリアはアフリカ随一の約1億5000万人の人口を擁する国で、1999年に民政に移行してからは、政治的にも社会的にも安定してきています。高い技術力を持つ日本企業にも、フリーゾーンなどを活用して、この潜在的に巨大な消費者市場に積極的に進出していただきたいと考えています。



フリーゾーン (写真提供:NAC)